



# 横浜さかえ内科通信

## 微小血管狭心症について

狭心症は心臓を栄養する血管である冠動脈が狭くなり十分な血液が心臓に送れなくなつた時に生じます。

これには、冠動脈内に動脈硬化（コレステロールの塊など）ができて血流が悪くなつた労作性狭心症と発作時に血管が痙攣して狭くなる冠攣縮性狭心症の2種類があります。これらはニトログリセリンが効くことが多いので、これまでニトログリセリンが効かない胸痛は狭心症ではないと考えられていました。しかしながら、近年ニトログリセリンがききにくい微小血管狭心症の存在が知られていいます。微小血管狭心症は、髪

毛の太さ程度の微小な冠動脈の痙攣のために心臓への血流不足が一時的に起こることによつて起こる狭心症とされています。女性ホルモンが急激に低下する女性の更年期にこのような微小血管狭心症が起こりやすいと言われています。

## 微小血管狭心症の診断

微小血管狭心症では、大きな冠動脈の攣縮と異なり、狭心症に典型的な数分間の胸部圧迫感ではなく、呼吸困難感、吐き気、胃痛などの消化器症状、背部痛、顎やのど、耳の後部などへの放散痛、動悸など多彩な愁訴であることが多く、その持続時間も数時間に及ぶこともあります。発作時も

心電図の変化に乏しく、心臓カテーテル検査による冠動脈造影によつてもはつきり冠動脈の狭窄がみられないことが多いので診断がつきにくいのです。今後、微小血管狭心症の研究がさらに進んで確実に診断できる検査法の開発が待たれます。現時点では研究的検査として心臓カテーテル検査における冠血流予備能の測定や心負荷時の心筋から代謝される乳酸の測定、血中セロトニンの測定、PETを用いた検査などがあり、今後の展開が待たれます。

## 微小血管狭心症の治療

微小血管狭心症の治療は薬物療法が中心です。カルシウム拮抗薬に反応が良い

のですが、内服しても症状がなかなか改善しない場合には、さらに強化した治療（血管拡張薬の追加、高脂血症の治療、血管内皮反応性の改善薬、女性ホルモン補充）が必要となります。微小血管狭心症を避けるには、高血圧、脂質異常症、糖尿病、メタボリック症候群などを適度な運動と食事で予防し、飲酒や喫煙をしないこと、ストレスをためないことも大事です。

**横浜さかえ内科**

診療時間 月火水木金土日祝

9:00~13:00 ●●●● / ●○ /

15:00~19:00 ●●●● / ● / /

受付開始・終了は15分前 ○土曜日は9:00~14:00

**JR本郷台駅徒歩3分**

栄区小宮ケ谷1丁目15-2 長嶋本郷台マンション2F

**TEL.045-897-5515**